

【信頼関係あっての言葉】

毎月おこなわれる法人主催の主任会議や研修では、さまざまな方のお話を聴く機会があります。その中で私が共感し、耳にしてからずっと心に留めている言葉があります。

何を言われるか より 誰に言われるか

この言葉を聴いた時は、心にスッと入り、納得感を得たことを覚えています。

就職したばかりの頃、右も左もわからない私に保育の仕方や社会人としてのマナーを、一から丁寧に教えてくれる先輩がいました。

その先輩は、言ったことは必ず守る上に、固定概念にとらわれず、柔軟に考えられる人でした。

そして時には自分の時間を割いてでも、私の話に耳を傾けてくれました。

今思えば、言いにくいであろう内容の話も面と向かって話して下さったので、“私のため”だと感じるものも、たくさんありました。

そのため、先生からの言葉は、例え私の考えと違っていても、真摯に受け止めることが出来ました。

当時はそこまで気に留めてはいなかった“その先生と私の関係性”ですが、社会人として年数を重ねてきた今、振り返ると…そこには“信頼関係”があったと確信しています。

同じ内容の話を、同じトーンで、同じ言い回しで言われたとしても、きっとその先生でなければ受け止め難く感じたこともあったと思います。

逆を言えば、その先生に言われたことならば、厳しい内容であっても一度受け止めて自分の中で考え、かみ砕き「何が言いたかったのだろう」「何を伝えたかったのだろう」と私なりに理解に努めました。

なぜ「人」を重視してしまうのか

なぜ、何を言われたかの「言葉」よりも、誰が発した言葉＝「人」を重視してしまうのでしょうか。上記のエピソードで言えば、指導をしながらもいつも親身になって話を聴き、受け入れ、一緒に考えてくれた先生の姿があります。

そんな姿と言動が一致しているからこそ、初めて「言葉」が力を持つと思っています。

言行一致（言葉に出したことと、その行動が同じであること）が信頼関係を築くためには大切で、例えば、『時間、約束を守る』『言ったことは必ず実行する』『発言に責任をもつ』のようなことです。これらの積み重ねが、誠実さや責任感につながり、やがて自身の思考や人柄を作っていきます。

【言行一致】は子どもと関わる時にも大切にしたいですね。

私も言葉に重みが出て、伝えたいことをまっすぐに受け取ってもらえるような人になりたいので、そのための自己研鑽も心がけていきます。

（清水）